

アフガン在住のジャーナリスト、安井浩美さんの講演会を開催しました

12月10日、アフガニスタン在住のジャーナリスト、安井浩美さんをお招きして講演会を開きました。

講演では、自己紹介としてNHKのテレビ番組「シルクロード」にひかれて日本を飛び出したこと、旅の途中で出会った難民や遊牧民など周辺に押しやられた人々のために何が出来るかを考えた末、彼らのことを広く日本の人々に知ってもらうためジャーナリストを志したことを話してくださいました。安井さんは多民族国家アフガニスタンの現状、特に女性を取り巻く問題についても触れ、アフガニスタンの人々が民族間の違いを乗り越えて協力すること、女性が差別に甘んじることなく自立できるように支援することがアフガニスタンの未来にとって不可欠であると話されました。そのためには学校教育の充実が必須とも指摘されました。

安井さんご自身は、バーミヤンに住む女性の自立を支援するためにアフガンの伝統を生かした工芸品を販売する店を立ち上げ、女性が男性に全面的に依存するのではなく、自ら技術を身につけ収入を得ることの大切さを知らせようとしています。途上国の人々を貧しいからかわいそうだからといって、お金や物資を支援するのではなく、自ら収入を得られるように知識と技術を身につけるのを支援すること、そのためには、教育が最も大切だという言葉で締めくくられました^注。

注：鳴門教育大学は2005年以来、国際協力機構（JICA）を通してアフガニスタンの教師教育、識字教育を支援しています。

文責 小野由美子



安井浩美さん。洋服はバーミヤンの女性の手によるもの。



安井さんの話を熱心に聞く参加者。



最新の現地情報と安井さんの率直な語り口に引き込まれました。